

# 海洋概報(海水編)で見る海水情報センターの歴史

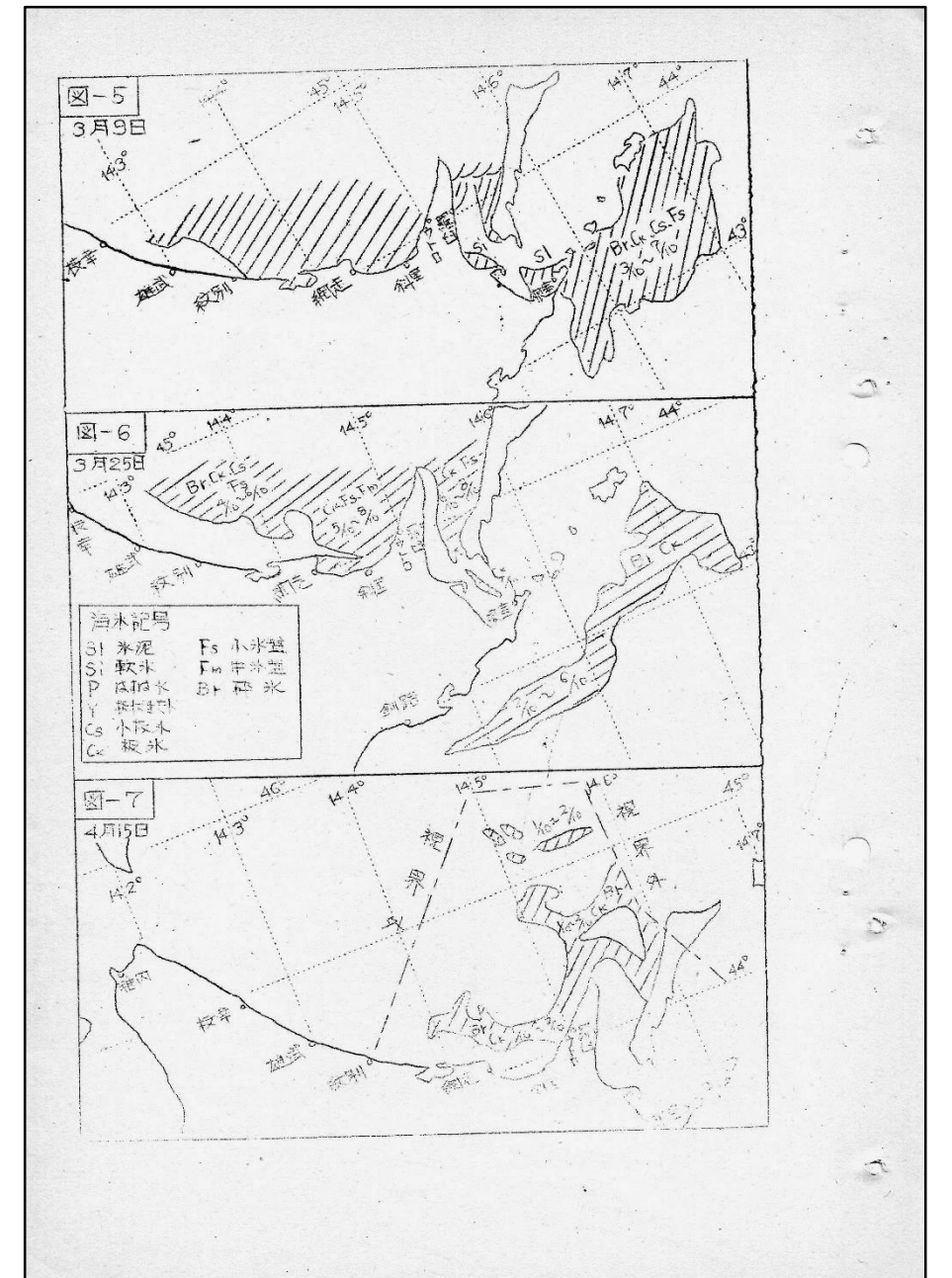
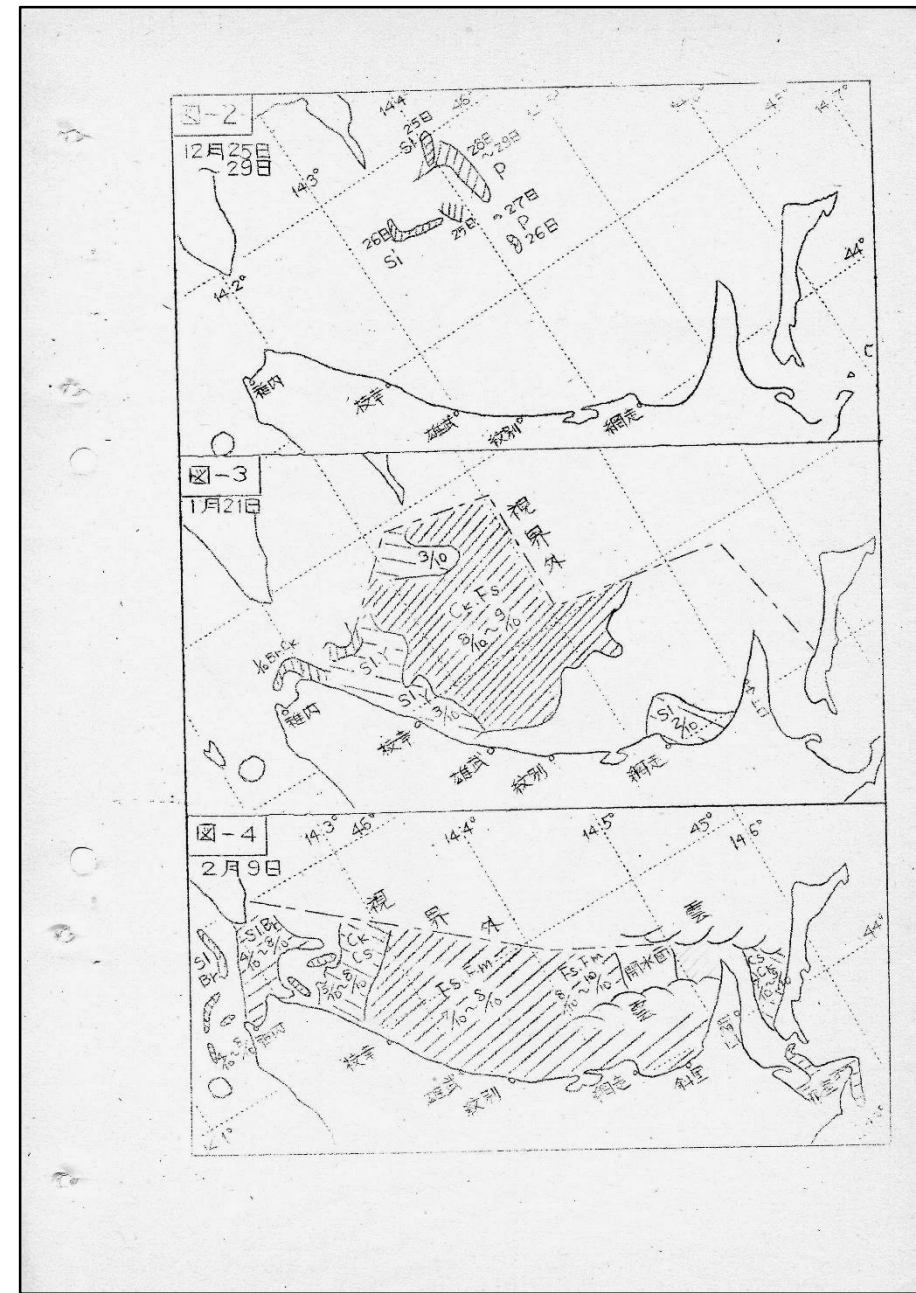
## 海洋概報 (海水編) とは

第一管区海上保安本部で設置している海水情報センターにおいて開所期間中に観測・収集して取りまとめた海水観測結果の概要を報告するものである。一部を抜粋して紹介する。

### 海洋概報 (海水編) 昭和46年 (1971年)

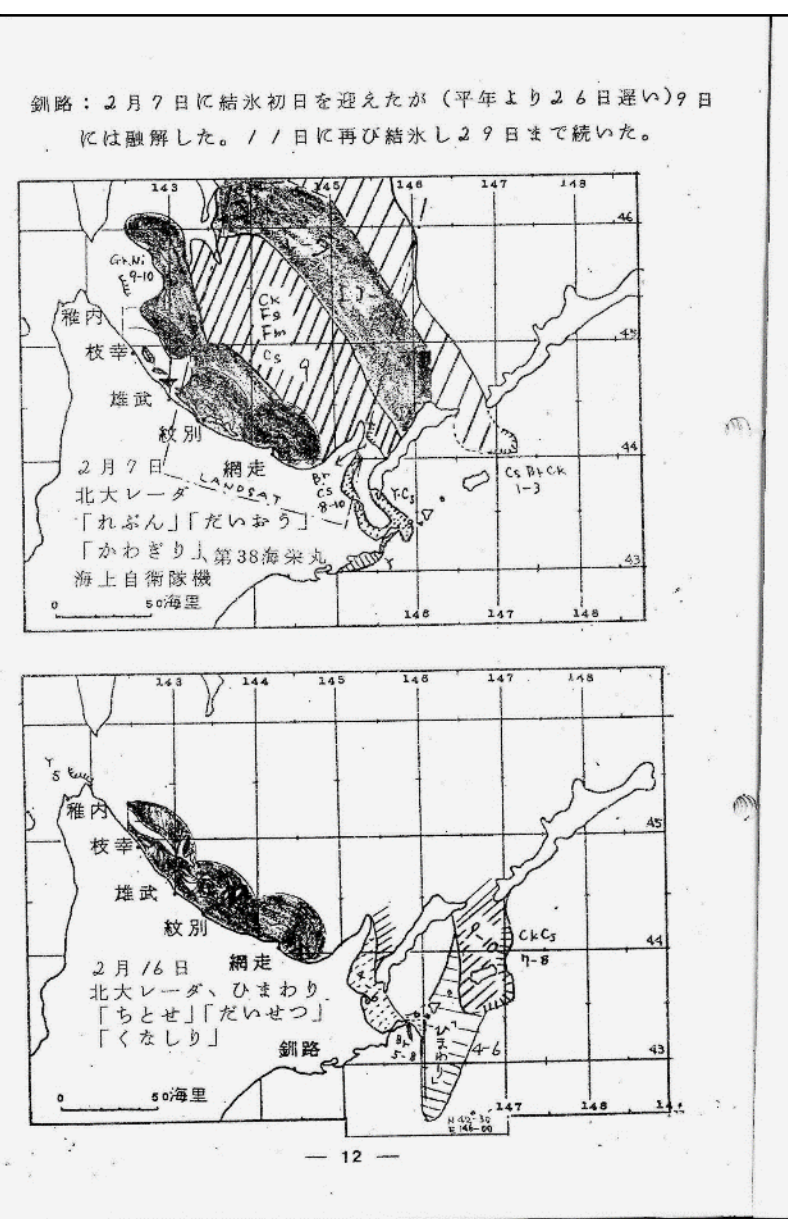
海洋概報  
(昭和46年第5号)  
方面北海道周辺海水状況  
観測期間 自昭和45年12月 日  
至昭和46年 5月 日  
第一管区海上保安本部

した状態が観測された。  
1月1日～2日には逆気圧帯～宗谷沖で大小の氷塊からなる薄氷帯が接岸、秋田～鹿児島間の沖合は広い氷域となつた。(図-1)  
2日以後はオホーツク沿岸全体は優勢な氷域が全域接岸し、流氷最前線に入つた。  
2月： 野郎沖、津内、宗谷沖では上旬から、太平洋側の瀬戸沖、厚岸では中旬から流氷結氷が見られる様になつた。  
オホーツク沿岸に接岸する流氷は一部宗谷沖から日本海側に流出するもののみならず見られる様になり、(図-2)一方根室沖でも上旬には海峽北部に流れ、中旬に海峽全体に流入した流氷が見られるようになり、更に太平洋側への流出が始まつた。下旬には海峽全体が小氷塊、散氷、砕氷からなる流氷域におおわれた。  
3月： この月に入つて、オホーツク海側では宗谷海峽一帯一帯と順に流氷は後退し、市広の沿岸水路が出来る様になつた。このため宗谷、野郎沖では流氷結氷も同時に消滅した。  
中旬に太平洋側では流出した流氷は、落石岬南方30M付近から色丹島南方50M付近の広い範囲に漂流し、この範囲での流氷監視がなされた。(図-3)  
下旬にオホーツク海側沿岸の流氷は更に北東方



### 海洋概報 (海水編) 昭和59年 (1984年)

2月  
月を通して冬の気圧配置となることが多く、低気圧が持続した。このため流氷は徐々に勢力を伸ばし、7日には稚内湾水道及び国後水道から太平洋側へ流出するようになった(年間に比べ5日遅い)。  
中旬に入ると、太平洋側への流出は加速となり、20日には北緯42度線まで達した。  
また、23日に貨物船「オーシャンビップ」が北緯41度/東経142度の位置で流氷帯を通過したが、これは流氷監視史上最も南の位置であった。  
また、日本海側の流氷は南下し、下旬に入り盛んとなり、旬後半には利尻、礼文島の沖合に達した。  
海内状況  
1月： 1日～2日までは海内の一部に少量の結氷、3日～7日は結氷の約半分が結氷し、8～20日は結氷の大半が結氷に覆われていたが、21日以後は増減を繰り返していた。2月： 1日～8日は全域結氷に覆われていたが、9～20日は融解して少なくなった。3日以後は再び全域が結氷に覆われた。  
流氷： 1日～2日まではほぼ全域が結氷に覆われていた。  
観測： 2月10日に結氷初日を迎えた(年比より2日遅い)9日には融解した。11日に再び結氷し29日まで続いた。  
2月16日 網走 北大沼「だいきつ」「かまきり」38乗客 海上保安隊機



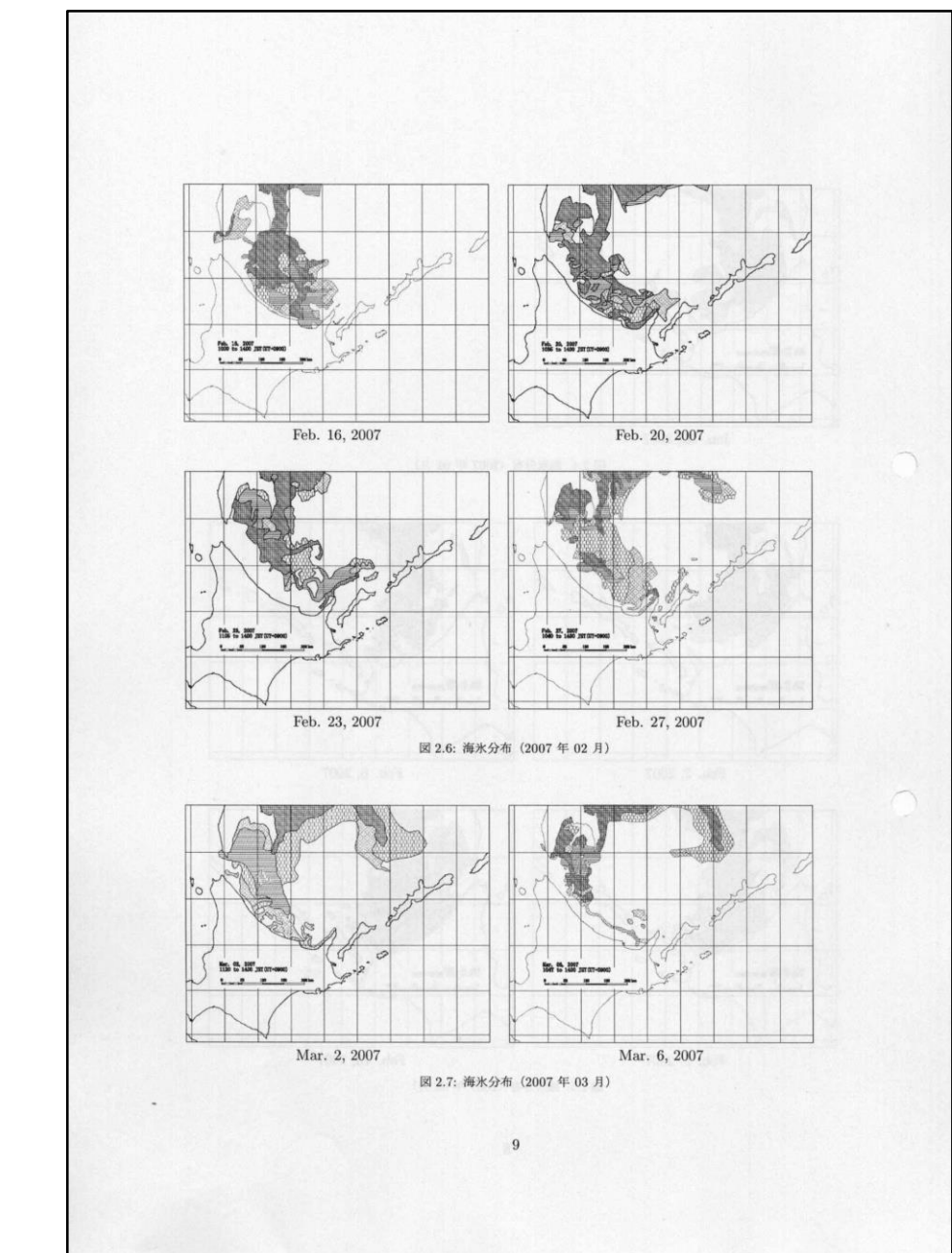
### 海洋概報 (海水編) 平成8年 (1996年)

2月上旬  
1日～4日までは、暖気が入り気圧が低くなり、流氷は徐々に融解していった。5日からは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。6日～10日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。11日～15日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。16日～20日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。21日～25日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。26日～30日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。  
2月中旬  
1日～5日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。6日～10日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。11日～15日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。16日～20日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。21日～25日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。26日～30日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。  
2月下旬  
1日～5日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。6日～10日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。11日～15日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。16日～20日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。21日～25日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。26日～30日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。



### 海洋概報 (海水編) 平成19年 (2007年)

1月  
下旬には、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。2日～5日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。6日～10日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。11日～15日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。16日～20日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。21日～25日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。26日～30日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。  
2月  
1日～5日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。6日～10日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。11日～15日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。16日～20日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。21日～25日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。26日～30日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。  
3月  
1日～5日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。6日～10日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。11日～15日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。16日～20日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。21日～25日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。26日～30日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。



### 海洋概報 (海水編) 平成31年 (2019年)

1月  
下旬には、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。2日～5日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。6日～10日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。11日～15日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。16日～20日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。21日～25日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。26日～30日までは、暖気勢力をめぐり、低気圧が南下し、流氷は徐々に融解していった。  
2月  
1日～5日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。6日～10日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。11日～15日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。16日～20日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。21日～25日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。26日～30日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。  
3月  
1日～5日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。6日～10日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。11日～15日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。16日～20日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。21日～25日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。26日～30日までは、冷気が入り気圧が高くなり、流氷は再び南下していった。

